

## 1 計画の概要

(1) 計画名 健康市民おかやま21（第3次）

### (2) 目的

すべての市民が健康で、心豊かに生活できる持続可能なまちの実現を掲げ、胎児期から高齢期に至るまで継続して健康づくりに取り組むことにより、誰もが健やかで心豊かに生活できる岡山市を目指す

### (3) 計画期間

令和6（2024）年度から令和17（2035）年度（12年間）

### (4) 位置づけ

- ・健康増進法第8条に基づく「市町村健康増進計画」であり、国の「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21（第三次））」の地方計画
- ・「岡山市第六次総合計画」の健康づくり分野の計画として位置づけられ、保健・医療・福祉分野施策の基本となる指針を総合的に定めた「岡山市地域共生社会推進計画（地域福祉計画）」を上位計画として位置づけるとともに、その他関連計画との調和を図る

### (5) 第3次計画策定に向けたこれまでの取組

- ・健康市民おかやま21（第2次）最終評価アンケート調査の実施（資料8）
- ・活動評価部会において活動推進の評価
- ・健康市民おかやま21推進会議において新計画について協議
- ・新計画策定市民ワーキング会議において推進のあり方検討
- ・新計画策定専門家会議において推進の方向性及び目標項目について協議

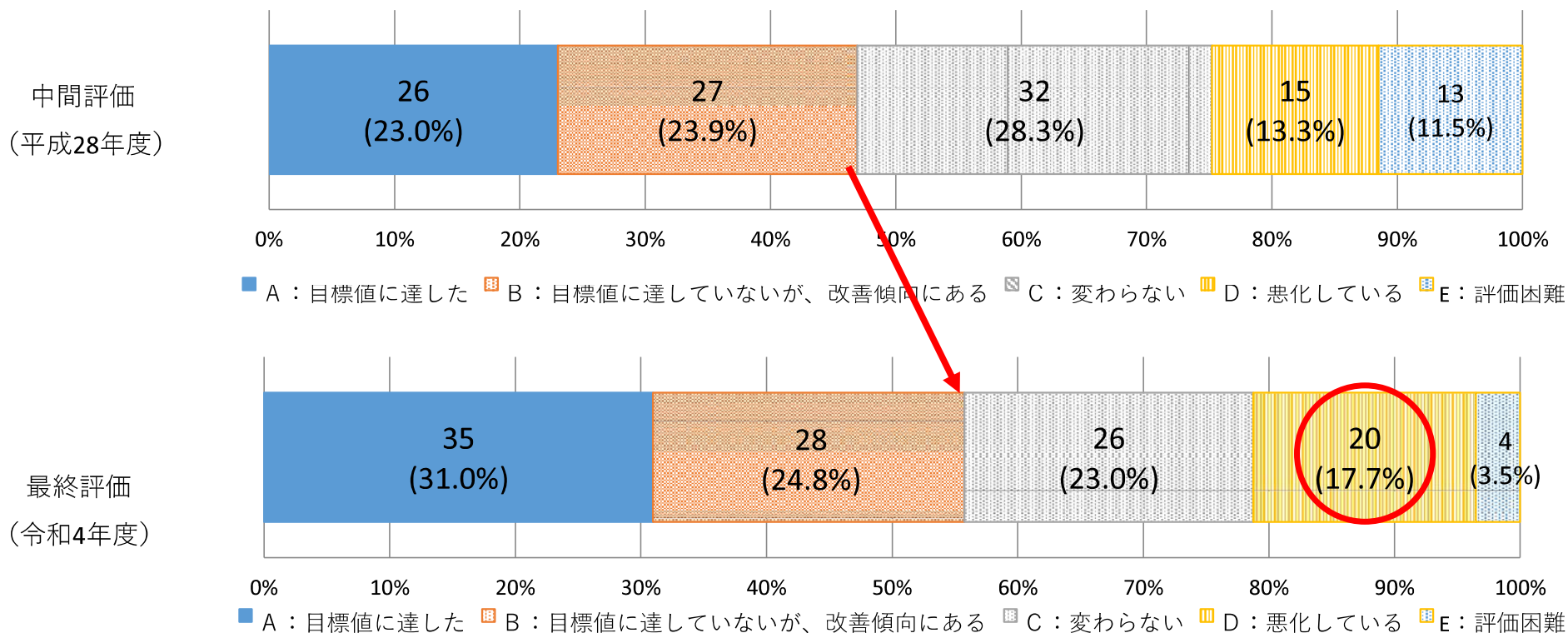
# これまでの「健康市民おかやま21」の取組経過

市町村健康増進計画として、市民の健康増進の推進を図るための計画とし、平成15年に「健康市民おかやま21」を策定。策定時より、ヘルスプロモーションの概念を市民と共有し、個人を支える仲間を増やしていこうと取り組んでいる。平成15年に策定して以降、取り組みで得た成果は継続し、新たに見えてきた課題については、次期計画に活かし、継続した健康づくり活動が展開できるようにしている。また、内外の動向も踏まえ策定している。

健康市民おかやま21 (平成15年度～平成24年度)	健康市民おかやま21 (第2次) (平成25年度～令和5年度)	健康市民おかやま21 (第3次) (令和6年度～令和17年度)
<p><b>【ビジョン】</b> すべての市民が健康で自分らしく生きる</p> <p><b>【上位目標】</b> 健康を自覚できる人の増加</p> <p><b>【成果】</b> ・計画策定時より、市民と協働で推進してきたことで、地域での健康づくりを進めるための体制整備が進み、地域のネットワークが広がった</p> <p><b>【課題】</b> ・青壮年期に対する取り組み ・こころの健康づくり</p>	<p><b>【ビジョン】</b> すべての市民が健康で心豊かに生きられるまち</p> <p><b>【上位目標】</b> 健康を自覚できる人の増加 健やかな暮らしを支える社会環境の実現</p> <p><b>【成果】</b> ・ソーシャルキャピタルの醸成が進み、人的環境を整えることはできた ・かるうま減塩対策や健康ポイント事業という新たな取組みにより、民間事業者の参画を促したり、インセンティブをつけることで、健康に関心の薄かった人を動かすなど、社会環境整備に取り組むことができた</p> <p><b>【課題】</b> ・生活習慣に関する指標の一部が悪化 ・社会環境整備が持続するようなくみ</p>	<p><b>【ビジョン】</b> すべての市民が健康で、心豊かに生活できる持続可能なまち</p> <p><b>【上位目標】</b> 健康寿命の延伸・健康格差の縮小</p>

# 健康市民おかやま21（第2次）最終評価の概要

## 目標値の達成状況（113項目 再掲項目を除く）



### 目標値に達した主な項目 (A)

- 健康寿命の延伸（65歳における平均余命・平均自立期間）
  - 運動習慣者の割合の増加（20歳～64歳）
  - 低栄養傾向の高齢者の増加の抑制（75歳以上）
  - 健康づくりに取り組む企業、団体・施設
  - 60歳で24本以上の自分の歯を有する人の割合
  - 組織間のネットワーク数の増加及び強化
- など

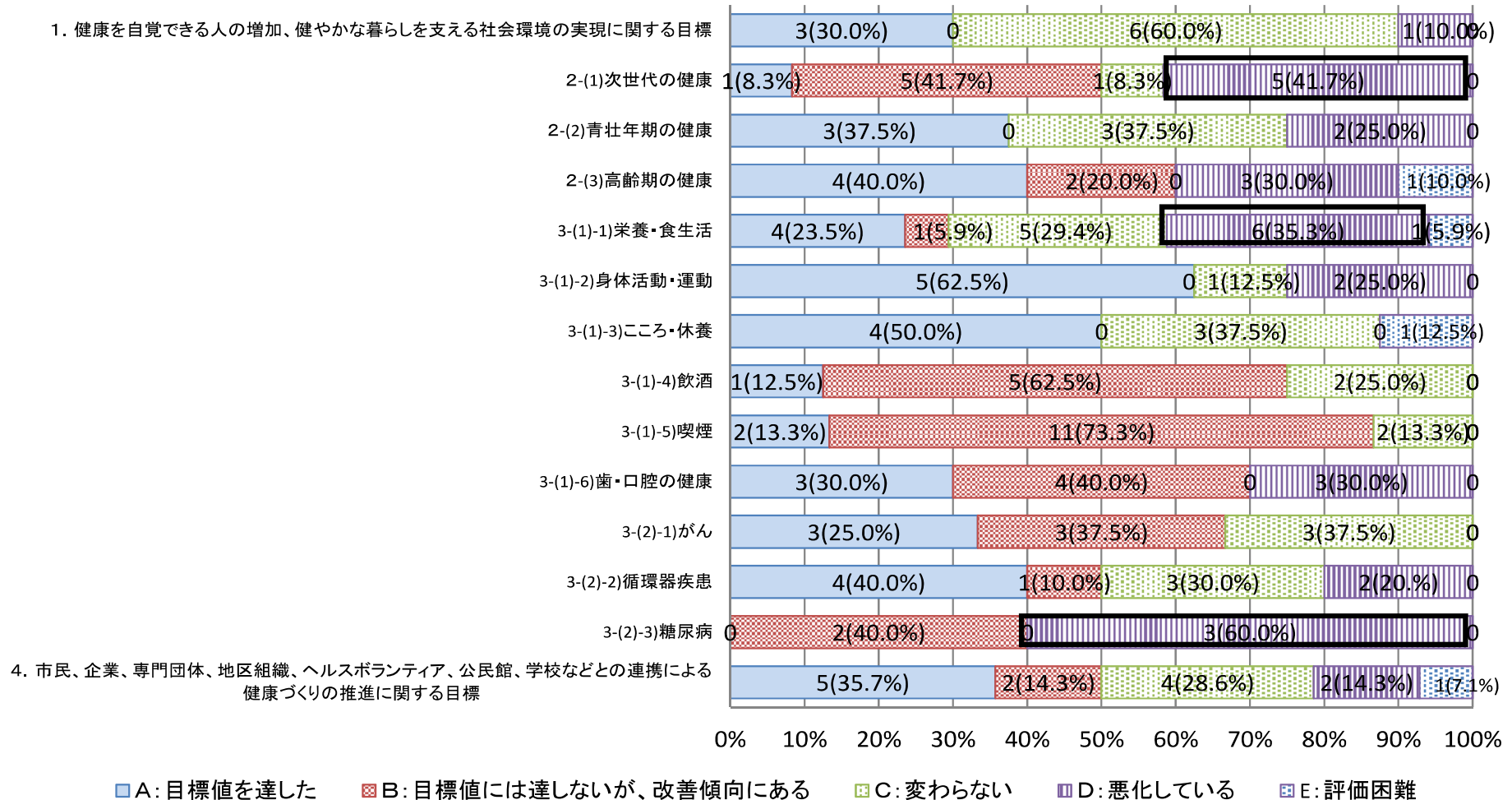
### 悪化している主な項目 (D)

- 適正体重を維持している人の増加（肥満の減少）
  - 適正体重の子ども増加（肥満傾向にある子どもの割合の減少）
  - 運動習慣者の割合の増加（65歳以上）
  - 糖尿病有病者の増加の抑制
  - 高齢者の社会参加の促進
  - 地域のつながりの強化
- など

# 分野別評価の結果

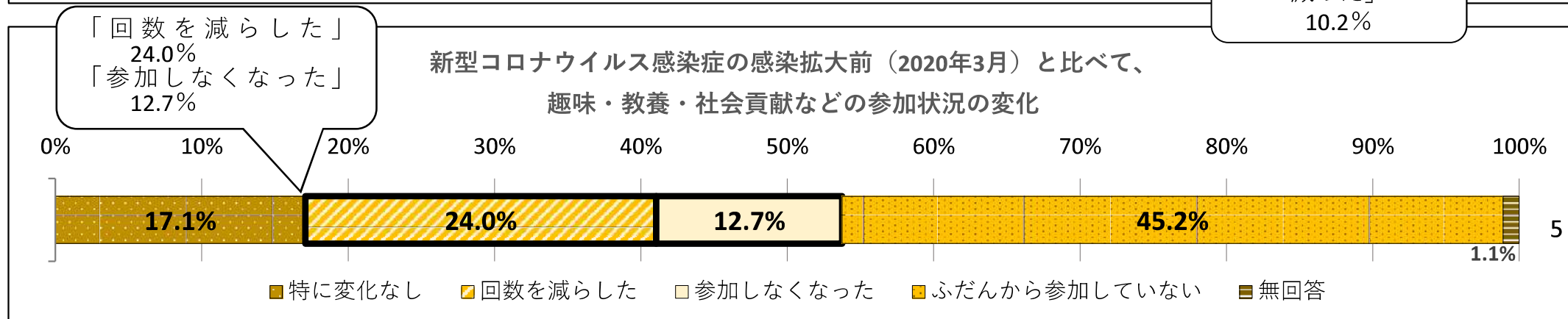
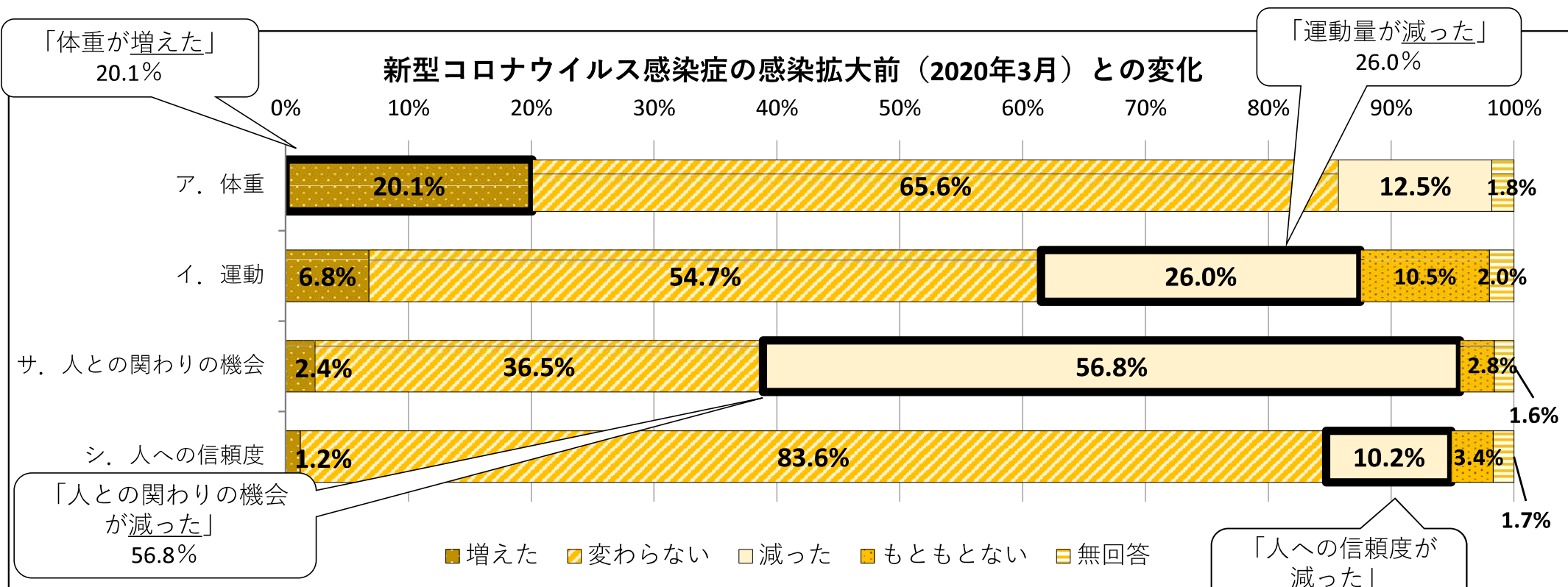
○分野別にみると、悪化している項目の割合が高かったのは、「栄養・食生活」「糖尿病」「次世代の健康」

図3 健康市民おかやま21(第2次)最終評価時点における  
各目標値の達成状況の内訳  
【144評価項目(再掲項目を含む)】



# 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前との変化

○新型コロナウイルス感染症は、生活習慣に様々な影響を与えた。また、人とのつながりがある者の方が健康度が高いということや、社会活動が健康寿命に影響を与えることがわかっているが、いずれもコロナにより悪化している





## 第2次計画の成果と課題（まとめ）

### 【成果】

- ・健康寿命延伸の目標値は達成し、評価項目の55.8%が「目標に達成した」または「目標に達していないが、改善傾向にある」を占めた
- ・地域の人と人とのつながりのなかで健康づくりを進めるソーシャルキャピタルの醸成は進み、人的環境の整備は進んだ
- ・かるうま減塩対策事業や健康ポイント事業等により、健康づくり活動に民間事業者の参画を促し社会環境にアプローチすることはできた

### 【課題】

- ・中間評価以降問題となっている、「肥満の人の増加」（栄養・食生活）「運動習慣のある人の減少（高齢者）」（身体活動・運動）「糖尿病有病者の増加」は悪化しており、喫緊の課題
- ・新型コロナウイルス感染症により減少した人とのつながり、地域ネットワークのつながりの再構築が必要
- ・多様な主体が健康づくり活動に参画し、その活動が持続するようなくみづくり

# 健康市民おかやま21（第3次）が目指す健康づくり

## 【全体像】

ビジョン

すべての市民が健康\*で、心豊かに生活できる持続可能なまち

上位目標

健康寿命の延伸・健康格差の縮小

個人の行動と健康状態の改善

生活習慣の獲得・改善  
(6分野の健康づくり)

- (1) 栄養・食生活
- (2) 身体活動・運動
- (3) 休養・睡眠
- (4) 飲酒
- (5) 喫煙
- (6) 歯・口腔の健康

生活習慣病の発症予防・  
重症化予防

- (1) がん
- (2) 循環器疾患
- (3) 糖尿病
- (4) COPD  
(慢性閉塞性肺疾患)

生活機能の維持向上

- (1) こころの健康づくり
- (2) 身体機能の維持
- (3) 社会活動・参加

社会環境の質の向上

社会とのつながり・こころの健康の維持向上

自然に健康になれる環境づくり

誰もがアクセスできる健康増進のための基盤の整備

政策的アプローチ

地域でつながり、高めあう市民の主体的な健康づくり

ライフコースアプローチ

多様な主体（産・官・学・金・言）によるアプローチ

\* 完治できない病気、加齢、障害などの身体的な課題を抱えていたとしても、生きがいをもちよりよく生きること

# 健康市民おかやま21（第3次）が目指す健康づくり

## 1. ビジョン

胎児期から高齢期に至るまで継続して健康づくりに取り組むことにより、誰もが健やかで心豊かに生活できる岡山市を目指す。持続可能とは、SDGsが掲げている「誰一人取り残さない」という多様性と包摂性のある社会を意味する

また、「健康」の捉え方を、2019年に岡山市が宣言したPHO（ポジティブ・ヘルス・オカヤマ）の概念とする

## 2. 基本的な方向

「健康寿命の延伸・健康格差の縮小」を上位目標に掲げ、それを達成するために、「個人の行動と健康状態の改善」「社会環境の質の向上」に取り組む

「個人の行動」は「社会環境」に内包され、社会環境の質の向上が、個人の行動と健康状態の改善を促すということを念頭に置き、取組を進める

## 3. 基本的な方向の取組を推進するための視点

基本的な方向の取組を推進するうえで、念頭におくべき視点を4つ掲げている

- ①地域でつながり高めあう市民の主体的な健康づくり
- ②ライフコースアプローチ
- ③多様な主体\*（産・官・学・金・言）によるアプローチ
- ④政策的アプローチ

\*産：企業、官：行政、学：教育、金：金融機関、言：マスコミ

## 4. 目標項目（資料7 P43～）

55項目65指標（再掲6含む）



# 今後のスケジュール

- 令和5年11月 6日 保健福祉政策審議会  
(計画の基本的な考え方及び素案について)
- 11月22日 保健福祉・協働委員会  
(計画の基本的な考え方及び素案について)
- 12月上旬 パブリックコメントの実施  
~1月上旬
- 令和6 1月 計画原案とりまとめ
- 2月 保健福祉政策審議会  
(計画原案、パブリックコメント結果について)
- 2月 保健福祉・協働委員会  
(計画原案、パブリックコメント結果について)
- 3月 計画策定